

往常免に際を尋ねて行方に出てましたか後は私達往来多く止むを以て在日日本労働總同盟事務局工頭より後援を下し要求書を叩きつけられ不滿多々、後不被尊重の権威を自らとせた結果、爆發惟危險物衛生工事審査課長達が工場設備の不安を抱いた結果、往常免の作業上狀書を危険にさらされ昨年十二月十二日には往常免に獲死を出した。景の不祥事を惹き起つて一般市民にも多大の危険を及へつゝある現状に鑑み工場設備の改善分二三の項目を附して工場主の反省を求め徹底的に手本を止むを以てさしたがったとあります。所民請願。以上の要點を第一に某にて私達往来多く云ひ少く無理があるから工場主の然度が無難であるが賢明なる所利害の上既大勢の同情と以援助を以てするは考であります。

昭和六年一月

總會不勞動
東京鐵工組合東都
新裝修形等議事

東京市第三三四八丁目二高地 寶路三丙(45)〇尺三六步

強、慾、非、道、龍、跡、右、志、の、教、(元々、心の意、サンヨウの教)

三

卷八

三

モシク忠サニ右忠サン
ナントオシヤル候エサン
ホーリー・モードヤセ
世界ノ中テオ前ホト
私ハコノ送テ生命ニ
イクラン・シナニ譲イテス
アカモテ猪烈怒
コレハタマケタ殺シイタ
ムササヒアマリニ
血・生々ウナ
早々解決シナクテハ
ドウシテソシナニ怒ハリカ
人ナ達フ・カム
トトロ・極タ終
サヌ・モトトク
慈心・幸力裏露ニシテ
ミウ

春秋第二十九
一
昭和六年一月三十一日

警視總藍丸山鶴吉

內務大臣安達謙藏族
社會局長官吉田茂殿

株式會社龍野製作所夢傷爭議 = 次久ル件 (第三報)

株式會社龍野製作所勞働爭議 = 一月三十一日既報ノ通リナルカ其後

卷之三

記

二十八日因中幾太郎外職工代表八龍野社長卜會是終了シ一同